

報告

第 26 回中国四国地区支部研究集会

小田 玄（修道中学校・高等学校）、伏見賢一（徳島大学）、
安藤 徹（徳島アスタムランド）

1. はじめに

標記の中国・四国地区支部集会在、今年度は 6 月 16、17 日の両日にわたって、愛媛県総合科学博物館で開催されました。今年度は愛媛県での開催の順番でしたが、愛媛県総合科学博物館には、天文専門の職員がおられないために、結局天文が専門でない職員の方と、県外の実行委員のメールのやり取りが中心の準備となりました。

関東からの参加者もあり、当日の参加も含めて 22 名の参加がありました。年に 1 度の再会である人も多く、無事の確認と共に久しぶりの天文を通じての交流を楽しみました。

順々に自分の定年にかかわる話をせざるを得ない状況が生じてしまいました。しかしながら、そんな話題になってしまうということは、思えば参加している会員の平均年齢がそれだけのすごく高く、特に発表者の多くは定年をすでに迎えたか、今迎えているか、間もなく定年を迎えようとしている人で、集会の構成メンバーが超高齢化社会の世相を反映しているということでした。

結局若い年齢層の会員を集めることが、実は急務であるということが判明してしまいました。

2. 実施内容

6 月 16 日（土曜日） 13 時開始

（愛媛県総合科学博物館・第一研修室）

- (1) 支部長あいさつ、自己紹介・近況報告
 - (2) 講演会
 - (3) 研究発表・報告 1
 - (4) 事務連絡・協議
- 夜 : 情報交換会

6 月 17 日（日曜日） 9 時開始

- (1) 研究発表・報告 2
- (2) エクスカーション

2.1 自己紹介

最初は恒例の、参加者一人一人による自己紹介・近況報告です。この 1 年の間にそれぞれの身に色々なことが何かとあり、皆様に何があったか、気にかかるところです。ただ、最初の発言者が、自分の定年に関する話を話し話してしまっただけのために、その後の人が



図 1 自己紹介：最年少参加者

2.2 講演

講演者の決定には、愛媛県内の候補者の日程が残念ながら合わず、少し苦労しました。

ちょうど岡山に大きな望遠鏡が建設されていることもあって、お忙しい中を、講演者として岡山天文台特定准教授の前原裕之さんに、「せいめい望遠鏡で挑む未知の宇宙」という演題で、京都大学岡山天文台の口径 3.8m 「せいめい」望遠鏡で計画されている”主要な研究テーマである”新星や超新星などの突発天体現象、太陽系外惑星、恒星のスーパーフレ

アについての紹介をしていただきました。

興味深いタイムリーなテーマだったこともあり、講演内容についていろいろな質問がきましたが、一番盛り上がったのは、3.8m 鏡のメンテナンスについてでした。



図 2 前原さんの講演



図 3 徳永さんの発表

2.3 研究発表 1

いよいよメインイベントの研究発表です。研究発表 1 の座長は、伏見賢一さんです。

アメリカの天文教育との比較、カンボジアで実施した天体観望会で初めて望遠鏡を見る子どもたちの反応やデジタルデータを使った新しい取り組みについて。他には太陽磁場の変動と気候変動に関する調査結果も報告されました。

1. 初等中等教育における日本とアメリカの天文教育の比較

岡山理科大学 福田尚也

2. 太陽磁場と気候に関する考察

香川環境保健研究センター 森 好平

3. ダジック・アースを用いた教育普及活動の紹介

阿南市科学センター 今村和義

4. カンボジア・シェムリアップの学校で実施した天体観望会

愛媛県総合科学博物館友の会・天文クラブ
徳永保固

2.4 協議

(1) 法人化実行委員会から ~法人化で変わること~

法人化が決まり、代議員制に移行することが決まりましたが、結局どうすればよいか皆さんおわかりですか？という、わかっていそうで、今一つ不安な内容について、委員会のメンバーでもあった山口県博物館の松尾さんより丁寧な説明がありました。

(2) 中国四国支部の今後の活動、次期開催地等について

支部集会の開催地は、一応ローテーションが組まれているため、次回の開催は島根県であることが確認されました。が、残念ながら、島根県からの参加者がおられなかったために、連絡確認して準備実行することとなりました。

(3) 天文の学べる大学説明会について

8月4日に、広島県尾道市で開催される中国四国地区・天文学宇宙を学べる大学合同進学説明会（世話人代表は尾道市立大学の川口俊宏さん）について、世話人である広島大学の川端先生より、詳しいご案内がありました。

2.5 情報交換会

皆様の楽しみの一つである情報交換会は、伊予西条駅から少し離れた場所にある居酒屋で実施されました。この場では、研究発表の

場とはまた異なる視点での大事な情報交換がたくさんなされ続けました。

夜が更に更けると、場所によっては星にまつわる歌もたくさん飛び出したりしました。

2.6 研究発表 2

2 日目は研究発表とエクスカージョンです。研究発表 2 の座長は安藤徹さんです。

高校および大学で行われている天文教育の現状と課題に関する発表がありました。高校における地学教育については、大学入試との関連が非常に強いと、地学が理科の選択科目から排除される傾向にあるとの危機感が報告されました。さらに、観望会および普及施設の現状と課題について詳細な報告がありました。



図 4 川端さんの発表

- 5. 広島大学宇宙科学センターにおける天文教育普及活動

広島大学 川端弘治

- 6. 自宅観測所の 30cm 望遠鏡の整備状況について

岡山理科大学 大島 修

- 7. Mitaka を用いた銀河系の立体構造の学習

香川大学 松村雅文

- 8. 観望会が雨の日の対応についての紹介

絵堂 晃

- 9. オープンから 3 年目 天体望遠鏡博物館の状況

- 一般社団法人天体望遠鏡博物館 片山敏彦
- 10. 修道高校の地学存続

小田 玄



図 5 片山さんの発表

2.7 エクスカージョン (午後)

コース 1: マイントピア別子から東洋のマチュピチュ・東平

今回は近くに天文にちなんだ訪問地がないため、地球関連でありなお且つ天空に近い施設であるということで、別子銅山の跡地に作られたマイントピア別子がエクスカージョンのコースに選定されました。愛媛県総合科学博物館の小林さんの案内で、めったに見られない往年の日本を支えた産業遺構を見学しました。

コース 2: 愛媛県総合科学博物館

もう 1 か所は、折角の天文関係の施設なので、会場そのものをエクスカージョンのコースとしました。

特別にプラネタリウム投影の休憩時間を利用して、会員の持参したメガスターCLASS (トイクラス以外でメガスターシリーズの最小機種) の投影なども行われました。メガスターの性能にも驚きましたが、最新の営業用投影機の性能とその価格にも驚きました。これはもうジャンボを買うしかないなと思いました。



図 6 メガスターと五藤光学の投影機

3. おわりに

身の周りに星仲間の少ない人が多いので、年に一度の集まりは、まさに織姫彦星のような、再会を切望する思いの集まりです。天文に関する研鑽を深めるだけでなく、一年ぶりの再会でお互いの無事、活躍を確認し、また新たな出会いも楽しめます。このような会は他にないので、これからもますます発展しながら続いていくものと思います。

今回は変則的な運営で、特に小林さんをはじめとする愛媛県総合科学博物館の方々には随分とお世話になりました。有難うございました。

来年は島根県開催の予定で、新代議員の元で運営されます。いろいろありましたが、来年もみんな元気に再会するはずです。



小田 玄



安藤 徹



伏見 賢一



図 7 最後の集合写真